

## 30日 火曜

### Ⅱ サムエル

24:1 さて、再び【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、ダビデをそそのかして、彼らに向かわせた。「さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ」と。

24:2 王はともにいた軍の長ヨアブに言った。「さあ、ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルの全部族の間を歩き巡り、民を登録し、私に民の数を知らせよ。」

24:3 ヨアブは王に言った。「あなたの神、【主】が、この民を百倍にも増やしてくださいますように。わが主、王の目が、親しくこれをご覧になりますように。ところで、わが主、王は、なぜこのようなことを望まれるのですか。」

24:4 しかし、ヨアブと軍の高官たちへの王のことは激しかった。ヨアブと軍の高官たちは、イスラエルの民を登録するために王の前から出て行った。

24:5 彼らはヨルダン川を渡って、ガドの谷の真ん中にある町、ヤゼルに向かって右側にあるアロエルに宿営し、

24:6 ギルアデとタフティム・ホデシの地に行き、さらにダン・ヤアンに行き、シドンに回った。

24:7 そしてツロの要塞に行き、ヒビ人やカナン人のすべての町に行き、ユダのネゲブへ出て行って、ベエル・シェバに至った。

24:8 彼らは全土を歩き巡り、九か月と二十日の後にエルサレムに帰って来た。

24:9 ヨアブは兵の登録人数を王に報告した。イスラエルには剣を使う兵士が八十万人おり、ユダの兵士は五十万人であった。

24:10 ダビデは、民を数えた後で、良心のと



がめを感じた。ダビデは【主】に言った。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。【主】よ、今、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」

24:11 朝ダビデが起きると、【主】のことがダビデの先見者である預言者ガドにあった。

24:12 「行ってダビデに告げよ。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに三つのことを負わせる。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」

24:13 ガドはダビデのもとに行き、彼に告げた。「七年間の飢饉が、あなたの国に来るのがよいか。三か月間、あなたが敵の前を逃げ、敵があなたを追うのがよいか。三日間、あなたの国に疫病があるのがよいか。今、よく考えて、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」

24:14 ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。【主】の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」

人口を数えることがなぜ「罪」なのでしょう。それは主ではなく数を頼りにする思いから来ているからです。ダビデは自分自身の人生を顧みる時が来て、自分の功績に満足したかったのでしょうか。またはイスラエルの行く末に安心したかったのでしょうか。

しかしそれらを与え、守るのは神様なのです。私たちがまた自分の功績に満足し、今後に安心したいでしょう。しかしそれら数えたところで、安心な状況を見たところで、主の守りがなければ全く意味がないと気づく必要があります。

主はダビデとイスラエルに間違いをさせないために、ここでレッスンを与えられます。主の手に陥ることになりますが、大切な経験です。全ては主から与えられていると、感謝しつつ、理解しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

